

第8号

誇りある国づくりをめざす北海道のオピニオン誌

北海道の息吹

令和3年1月

8

それは、留まることのない覇権体質、厚顔無恥、鼻持ちならない傲慢さ；そんな共産主義国家のありようを、日本のみならず世界が目当たりにしたことに集約されるだろう。米国が持ち込んだとか、ヨーロッパ由来だとか、“発”の否定に躍起なC国政府には、真実の探求や本当の正義という概念がないこともハッキリした。武漢ウイルスは細菌兵器が漏れたのでは？…当初の疑念は現在沙汰やみとなつてはいるが、仮に動物由来としても、パンデミックに至る過程を辿ればC国の責任は

免れまい。それが社会に生きる個、国際間における国家の最低の規範とされるべきだからだ。文明とは程遠い食習慣が、“食文化”とは笑止だが、C国では未だに野生動物取引が公然と行われているという。その一事からこの問題に不可抗力など認めがたく、武漢ウイルス禍とはすなわちC国による人災なのである。

他方、これらに対するわが国の対応は：。少し前(10/25)だが、尖閣周辺へのC国公船の侵入は49日連続、ある時は57時間以上も居座った。“遺憾である”“毅然と対応する”―政府発表はそれなりだが、同諸島の動植物生態調査もフタを開ければ人工衛星を活用するのとか。加えて先頃には、C国外相の居直り会見を許す始末で、今なおC国主席の国賓招待を中止できない体たらくにある。この期に及んでとあえて言うておこう。一体、我が政府には国家行政機関としての矜持があるのか。そして、“安倍政権の継承と発展”を唱える新政権誕生から数か月、新首相は「国民にとって当たり前のことをしたい」「国民の命と暮らしを守る」という。悪しき前例と行政の縦割り打破、規制改革、デジタル庁設置：まあ結構だが、前政権が掲げた憲法改正への積極的な言及がないのはどうしたこと

か。そもそも、現下の世界情勢にあつて“携帯料金値下げ”“ごときを目玉政策に掲げるわが国の首相とは一体何なのか。遺憾ながら現政権の限界は推して知るべしで、この実情には次の言葉こそが相応しかろう。「このまま行ったら日本はなくなつて、その代わりに、無機質な、からっぽな、ニユートラルな、中間色の、富裕な、抜け目がない、或る経済大国が極東の一角に残るのである」(三島由紀夫)

ご存じのとおり、当会の活動にあつて憲法改正は悲願の一つである。その目的にとつて、武漢ウイルスはC国の正体を見せつけるという気付きをもたらした点において、更には世論醸成の意味において一筋の光明なのではないか。他国の困

日本会議北海道本部

専務理事

福原 克興

コロナ禍は憲法改正への一里塚

武漢発の新型コロナウイルス（以下、「武漢ウイルス」という。）に明け暮れた令和2年となった。感染拡大が危惧された冬期間、状況は見てのとおり。GOTOキャンペーンも道半ばにして終焉、新たな日常への試みは充足感のないまま正に敗北の体である。武漢ウイルスが、世界にどれほどの甚大な損害をもたらしたのか：もはや紙幅を費やすのも腹立たしく、ふつふつとしたやり場のない怒りだけは万民の共感を得られることだろう。しかしここに至つては、いわば冗談気分で、この災禍が人々に思わぬ気付きをもたらしたことに視点を転じてみてはどうだろう。

北海道本部 令和2年度の活動方針(案)

コロナ後の社会状況を見据え、従前からの活動の維持・継続を念頭にしつつも、事業の優先度を考慮しながら選択的に実施したい。

1) 維持、継続すべき(基本的)事業

- 憲法改正に向けた間断なき取り組み
- 固定事業の実施(総会・建国・憲法記念日)
- 会員拡大に向けた積極的な取り組み

2) 優先して実施すべき事業

- 土地爆買問題
- アイヌ問題(博物館展示問題含む)

※いずれもコロナ後の事業ということから、実施要領の根本的見直しが必要となる。

* 武漢ウイルスの影響と諸事情により、機関誌の発行が大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。また、昨年の「定期総会」及び今年の「建国記念奉祝道民の集い」は感染拡大防止のため中止となりました。



聖寿万歳をする岩田会長と長谷川先生



講演する長谷川三千子先生



会場は約600名の来場者で満席に



提灯を手にした子供の姿も



陸上自衛隊音楽隊の先導による提灯行列



来賓の鈴木直道知事は「大嘗宮の儀に参列し、国民の幸せと世界の平和を願う陛下のお気持ちに強い感銘を受けた。道民と皇室の信

頼の絆がさらに深まることを祈念すること祝辞を述べました。

続いて、日本会議代表委員やNHK経営委員を務める長谷川三千子埼玉大学名誉教授が「皇室文化と我が国の国柄」をテーマに記念講演を行い、「わが国の政治の基本は『民のための政治』であり、『国民に寄り添う』という今上陛下のお言葉にも表れている。令和にふさわしい御代を、皆様と共に築き上げていければ素晴らしいと思う」と語りました。聖寿万歳で会を締めくくり、その後提灯行列が行われました。

第一部記念式典では、国歌斉唱のあと、天皇陛下御即位奉祝実行委員会の岩田圭剛会長（一般社団法人北海道商工会所連合会会頭）が主催者代表あいさつに立ち、「天皇陛下はご即位に際し、国民に寄り添いながら責務を果たすと述べられるなど、その謙虚で献身的な姿に感銘を受けた。本日の集いが令和の時代が穏やかで希望に満ちた時代に向けた第一歩となるように願っている」と述べました。

式典の開催に先立ち、会場ホール前において、「御即位奉祝写真パネル展」が行われ、多くの方が写真に見入っていました。



希望に満ちた新時代へ「誓い」新たに
天皇陛下ご即位奉祝道民の集い
 令和元年十一月十七日（日）ロイトン札幌





※5 令和新時代の幕開けにふさわしい講演会
「世界に誇りうる素晴らしい日本」



※2 これまで2回開催された歴史人物講話も
惜しまれつつこれが最後に



※1 暑い日も寒い日も、
歩行者に対して保守的な
立場から、改憲の必要性
などをアピール!



※4 令和2年8月7～8日チカホで開催の慰安婦パネル展
若い女性の見学者が多く見られました。



※3 令和元年11月30日開催の討論会 「アイヌ新法がなぜ問題か? in 北海道」
来場者は約200名でほぼ満席に

活動報告 ※1

【街宣委員会】

街宣委員会では「街角でマイクを持ち多数の人達にメッセージを伝える」活動をしています。継続は力なり。たとえ思いが通じるのが2%であっても、街の賑わいの中で発信を続けていく。定例で続けていく。それにより多くの方々に思いを伝える事が出来たと自負しています。

「定例街宣のご案内」

※どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

■日時 毎月第二四日曜日
十四時～十六時

■場所 紀伊國屋書店札幌本店前
(札幌市中央区北五西五)

■現場責任者 坂元
電話 〇九〇・一三〇五・八二五五

歴史人物講話 ※2

令和元年八月二十四日
「かでる2・7 5 階会議室」

令和初の講話は「日本が担う人類の将来『日本文明の世界的使命』の演題で開催されました。回を重ねるたびに、岡田先生の語られる講話を通して、聞く者の心にいつも深い感動と余韻が残りました。この講話も諸般の事情により、今回が最後になりました。こういった学びの場は今後継続していこうと思えます。長年にわたってご尽力いただきました岡田先生にこの場をかりてお礼申し上げます。

活動報告 ※3

【アイヌ問題検証委員会】

「昨年四月に制定された所謂「アイヌ新法」。この法律の危険性につ

いて、日本会議は札幌や旭川で講演会等を開催し広く道民に訴えてきました。一昨年五月には「旧土人保護法」研究者の北海道教育大学の百瀬教授と小野寺前道議による「アイヌ新法を学ぶ」講演会。

九月にはアイヌ問題に長年取り組んでいる旭川の場医師と小野寺氏による、演題「あなたもなれる? みんなで「アイヌ」になろう」講演会。

十一月には、小野寺氏に加え沖繩問題についての仲村覚氏とチュウエ思想問題の篠原常一郎氏の四氏による討論会「アイヌ新法がなぜ問題か? in 北海道」を開催しました。講演会では何度か左翼系の団体からの妨害もうけました。

アイヌ新法が新たな施設ウポポイ(民族共生象徴空間)を生み、そこを通して何をなそうとしているのか。開拓記念館が北海道博物館になり、そして百年記念塔解体の一連の動きは、我々の先人の方々の「開拓精神」を骨抜きにするものだと思います。この問題は今後も精力的に取り組んでいこうと思えます。

活動報告 ※4

【慰安婦パネル展実行委員会】

平成二十六年一月から開催し、延べ三十四回の来場者数は合計で、二万二千五百五十一人。開催の目的は、戦時慰安婦に関して史実に基づき「左翼マスコミによって誤って流布されている虚実」をたどすことです。通称「チカホ」や、札幌市内各所においての開催のほか、旭川をはじめ今後道内各地での開催を計画中です。

主な活動内容

【令和元年】

■8月21日

星澤幸子さんとランチ＆講演会
「美と健康の料理研究家が伝えたい
日本・北海道の素晴らしさ」

講師：星澤幸子氏（料理研究家）
主催：日本女性の会

■8月24日

日本会議北海道本部公開講座

岡田幹彦「歴史人物講話」

日本が担う人類の将来
『日本文明の世界的使命』

企画運営：公益財団法人新日本教育者連盟札幌支部

■9月12～13日

慰安婦パネル展

会場：札幌市北区区民センター1F

■9月21日

あなたもなれる？
「みんなで“アイヌ”になろう」講演会

第1部

科学的アイヌ先住民族否定論

講師：的場光昭氏（医療法人健光会理事長）

第2部

これまでのアイヌ政策、これからの「アイヌ新法」

講師：小野寺 秀氏（前北海道議会議員）

■10月5～6日

慰安婦パネル展

会場：札幌駅地下歩行空間（チ・カ・ホ）

併催「テキサス親父」

日本事務局長・藤木俊一氏講演会

主催：日本軍「慰安婦」問題の解決をめざす北海道の会

後援：日本会議北海道本部

■10月27日 ㊦

講演会「世界に誇りうる素晴らしい日本」

講師：井上雅夫先生（同志社大学名誉教授）

主催：新教育者連盟

後援：日本会議北海道本部

■11月17日

天皇陛下御即位奉祝道民の集い

主催：天皇陛下御即位奉祝実行委員会

後援：北海道商工会議所連合会・北海道神社庁

北海道神宮・神道政治連盟北海道本部

■12月3日

アイヌ新法討論会

「アイヌ新法がなぜ問題か？ in 北海道」

登壇者：篠原常一郎氏（ジャーナリスト）

的場光昭氏

仲村 寛氏（ジャーナリスト）

【令和2年】

■1月12日

千歳・恵庭支部で成人式参加者に日の丸小旗配布

■2月11日

建国記念日奉祝道民の集い

後援：北海道神社庁

神道政治連盟北海道本部

■2月12日

日本女性の会講演会

「子供の気持ちによりそう教育の実践を語る」

講師：野田将晴先生

■7月18日

大討論会

北海道の課題「アイヌ新法」「反日石碑」

「土地爆買」「北方領土」大討論会

登壇者：的場光昭氏・仲村 寛氏

長瀬了治氏（シベリヤ抑留研究家）

会場：旭川勤労者福祉会館

主催：先人の名誉を護る会

後援：日本会議北海道本部

■8月7～8日

慰安婦パネル展

会場：札幌駅地下歩行空間（チ・カ・ホ）

※令和2年2月の建国式典以降、武漢ウイルス感染
拡大防止のため、各種行事が中止になりました。



野田将晴先生による記念講演
「皇紀2680年から始まる
戦後教育の再建」



令和初の建国式典を祝おうと約500名が集結



武漢ウイルス感染拡大防止のため、マスク姿の方が多く見られました。



恵庭市成人式での日の丸小旗配布



建国式典の翌日に開催された日本女性の会主催の講演会にて
（中央：野田先生と左は浅井会長）

令和初の建国記念日を盛大に開催！

建国記念日奉祝道民の集い

令和二年二月十一日（火）

ロイトン札幌

会場には令和初の式典を盛大に
祝おうと約五百名の来場者が詰め
かけました。

記念講演では、熊本県・勇志国際
高校の野田将晴校長が講演。六千人
以上の不登校の子供の自立を手伝っ
た経験をもとに不登校やいじめ、引き
こもりなどの教育問題の根本は戦後
教育にあると主張。

「『主権者教育』こそが突破口。人
権教育・平和主義・歴史教育により、
子供の公共の精神や利他心が育ま
れ、明るさと活力が生まれた。引きこ
もりで苦しんでいる大人にも、戦後教
育で教わらなかった本当の日本人と
しての教育を行うことで、必ず立ち
直ってくれるだろう」と持論を展開し
ました。

締めくくりは来場者全員で聖寿
万歳が行われ、式典終了後は約三百
名で会場から大通六丁目まで奉祝提
灯行列を行いました。

千歳・恵庭支部の活動
成人式に日の丸小旗配布

日本会議恵庭支部及び千歳支部
は令和二年一月十二日（日）、恵庭市並
びに千歳市が実施した令和二年度
成人式において、それぞれの会場にお
いて、成人式に参加する新成人並びに
付添いのご家族に対し、「おめでとうご
ざいます」との声掛けと共に祝いとし
て、日の丸の小旗を配布しました。
配布枚数は、恵庭市が六百本、千歳
市三百本でした。

憲法フォーラムは、ライブ配信
令和二年五月三日

昨年は、武漢ウイルス禍により
集会ではなく、ライブ中継が行わ
れました。安倍総理大臣はメッセ
ージの中で、憲法改正への意欲を
改めて示した上で、武漢ウイルス
対策で緊急事態宣言を出している
ことを踏まえ、緊急事態への対応
を憲法にどう位置付けるか、国会
で議論すべきだという考えを示し
ました。桜井よしこ氏は「憲法は
国民の命と生活を守るのか」の
演題で基調講演をされました。

中国による北海道の土地や資源の買収が、何故危険なのか？

中国資本による北海道の森林や水資源等の買収：私が北海道議会議員時代に道議会に追及し、その事実があることを道庁に認めさせてから早10年が経過した。だが国も道も安全保障上の観点からその危険性について議論することもなく、その間も、日本の国土や水源等の資源は中国に買われ続けている。

私は、この問題は日本の根幹を揺るがすことになりかねないと考え、調査研究に専念する為に5年前に北海道議会議員の職を辞し、複数のインターネット放送局やSNS等を利用して情報発信を続けてきた。ようやく多くの国民が「このままでは大変なことになる」と危機感を持ち始めた実感がある。また、次期国会では、自民党の一部議員により「外国資本の土地売買を規制するための議論」が始まる見込みだ。

しかし、そもそも「中国による土地や資源の買収が何故危険なのか」を、多くの国民や道民はもろろん、「政治家」ですらまだきちんと理解していないのは非常に残念な事である。

深刻な資源不足が続く中国

中国は深刻な水資源の不足が続いており、国連、世界銀行、ネイチャー誌など

が「中国の水資源はあと20年以内に完全に枯渇する」との研究結果を公表した。

また、エネルギー不足も懸念され、中国国有企業が米国の石油会社の買収を試みたが米国議会の「安全保障上の理由」による反発を招き失敗している。水資源やエネルギーの確保は国家の存亡に関わる重大事であり、実際に中国は世界各地で土地や資源を買い漁り多くの国で問題になっている。もし「日本の土地や資源だけは大丈夫だ」と考えるなら、お花畑に住む能天気な方々である。

一帯一路の罠に飲み込まれる北海道

習近平国家主席の最重要政策「一帯一路」は世界各国と中国間に物流経路を構築し現代版シルクロードを作るという壮大な構想だが、すでに中国からの債務超過に苦しみ、実質的に中国の支配下となる国が続出している。スリランカは中国にハンバントタ港を奪われ、IMF(国際通貨基金)のラガルド専務理事は「中国の一帯一路に参加している国々は」代償無し「若しくは、無料・お得」と考えるべきではない」とまで発言し警鐘を鳴らしている。いまや世界各国は「一帯一路」を中国による侵略行為と捉え、憲法や法律を変え対抗し始めている。だが日本は、

北海道はどうか？ 無防備のまま一帯一路のパートナーになり喜んでいる有様だ。中国の野望に基づく構想により北海道の広大な土地を買収され更に資源(水・食料・木材・石炭…等々)が根こそぎ中国に運ばれてしまう危険性があるにも拘らず…

だ。しかも日本の法制度は、国家の安全保障に影響を及ぼす土地であろうと、いったん売買が成立すると買い戻しや差し止め、強制的な収用ができないという致命的な問題を抱えている。これは土地のみならず、水、食料、全てのものに当てはまる。我々は早急に対応策を講じる必要があるが、その動きは皆無である。

新型コロナウイルス騒動で加速する侵略

2020年2月からの新型コロナウイルス騒動で、私は「北海道の土地買収の速度が鈍るのではないか？」と考えていたが直ぐにそれが甘かった事に気づいた。中国資本が複数のエリアで投げ売りに近い不動産のまとめ買いを始めたからだ。更に4月末、新型コロナウイルス緊急事態宣言下にもかかわらず、中国ネット販売大手のアリババが函館で「北海道の物を中国で販売する為の地元説明会」を開催したことも衝撃だった。コロナ禍で売り上げが落ち経営が悪化している道内

企業の救世主を装い、今後、コロナの影響次第で、世界的に不足する可能性のある食料を中国に輸出するというアリババに怒りすら覚えたが、北海道庁も全面的に協力する姿勢を示した。北海道経済が中国の大企業にコントロールされ、更に日本の食料安全保障をも脅かす事態を想定できない今の日本や北海道には、安全保障という視点が完全に欠落している。だから危険なのだ。

中国はパートナー国とウィンウィンの関係を構築すると吹聴しつつ、実態は一貫して自国の利益のみを追求してきた。共産党による一党独裁で周りの国々を侵略し、自国民さえも容赦なく虐殺した歴史を持つ。チベット、ウイグル、天安門事件、香港での思想・言論の弾圧も我々は知っている筈だ。世界で日本ほど中国に対し無警戒で寛容な国民は居ない。中国からの要望を手放しで受け入れ、国土や資源をどんどん売り続け、果たして日本人の幸せや平和、そして日本という国家そのものを守りぬくことができるのか：国民も政治家も行政もこの問題を真剣に考える時期に来ている。

1993年に李鵬首相がオーストラリアのキーティング首相に「日本は取るに足るほどの国ではない。40年後には地上から消えていく国となる」と公式の場でハッキリと宣言をしている。この事実を我々日本国民は再認識すべきである。

(令和2年7月6日)

前北海道議会議員 小野寺 まさる

『治に居て乱を忘れず』—。日本安全保障環境はいま急激に悪化しつつある。

敵のミサイル攻撃から日本の安全を盤石にすると喧伝された地上配備型迎撃システム—〈イージス・アショア〉の配備計画が六月十五日、突然白紙に戻された。これに替わる新たな抑止力の構築が何より急がれる。

そこで急浮上してきたのが「敵基地攻撃能力」保有の是非だ。背景に、中国・北朝鮮による脅威が以前とは比べものにならないほど高まっている現実がある。

特にここ数年、北朝鮮の飛躍的なミサイル関連技術の開発・高度化には慄然とさせられる。低高度を変則軌道で高速飛翔する最新の弾道ミサイル、核の搭載可能な複数の新型単距離ミサイル、はては潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)…。「東京を火の海にするぞ!」との脅しに、「専守防衛」という“内なる対応”ではたし

随
想

「専守防衛」が国を滅ぼす

て対処できるのか—。

こうした新事態に、“左巻き陣営”からはまたぞろ「憲法九条」や「専守防衛」論を持ち出して反論が噴出し始めた。曰く「攻撃的兵器の保有は専守防衛という平和憲法上の立場を完全に逸脱する」というのがその代表例。

最近、迎撃困難とされる〈極超音速滑空兵器〉を開発したと言われる中国に至っては、ここぞとばかりに「専守防衛の約束を真剣に履行せよ」と“説教”を垂れる始末だ。

「専守防衛」とは、日本だけが世界で唯一「攻撃する敵国の領域で戦うな」という、いわば、“本土決戦論”だ。有事の際に「ミサイル技術が進化した現在にあっては、『座して死を待つ』行為にほかならない」(阿比留瑠偉氏)

「憲法護って国滅ぶ—。“平和の毒”に染まった人々が一刻も早く覚醒することを祈ってやまない。(令和2年7月19日)

日本会議北海道本部 副理事長 武谷 洋三

笑顔のために。



私たちは、愛情あふれる
人と人とのふれあいが
いちばんの治療と考えています。



医療法人 豊岡中央病院
会 生 会

理事長 田下大海 院長 後藤英司

〒078-8237 北海道旭川市豊岡7条2丁目1番5号
Tel.0166-32-8181 Fax.0166-32-8192

診療科目 整形外科・内科・消化器内科・内分泌内科・糖尿病代謝内科
外科・大腸外科・肛門外科・脳神経外科・耳鼻咽喉科・小児科
リハビリテーション科・歯科口腔外科・麻酔科(板谷 和美)



北海道神宮

宮司 吉田 源彦

北海道神社庁

庁長 芦原 高穂

神道政治連盟北海道本部

本部長 北方 幸彦

北海道神社庁札幌支部

支部長 山口 貴生

日本会議北海道本部

会員募集中
お問合わせ

〒060-0062 札幌市中央区南2条西7丁目4-1 第7松井ビル 3F-C
TEL 011-209-3022 FAX 011-209-3023
E-mail:nippon.khh@gmail.com

日本会議北海道本部

検索